



子ども大学ふじみ

が開校しました

市では、子どもたちの知的好奇心を育み、学ぶ力・生きる力を伸ばしていくことを目的に、平成24年度から子ども大学ふじみを開校しました。

子ども大学は小学4〜6年生を対象に、大学のキャンパスなどで学ぶ子どものための大学です。学校では教わらないようなテーマを、大学や企業、地域の専門家がわかりやすく教えてくれます。6月9日に入学式と最初の講義が行われましたので、ご紹介します。

生涯学習課 ☎632

子ども大学が目指すもの

子どもたちは、日ごろ自分の周りで起こる出来事に驚いたり、さまざまな気づきや発見を繰り返して成長していきます。

市では子ども大学ふじみを開校し、大学という学びの場を通して、子どもたちに学ぶ力と生きる力を育み、さらには、地域での絆を深めていく機会とすることを目指しています。

どんなことをするの

- 主に3分野の授業を行います。
- ①ものごとの原理やしぐみを目指す「はてな学」：自然や動物の不思議、自然災害への備えなど
 - ②地域を知り郷土を愛する心を育てる「ふるさと学」：資料館での歴史研究、産業とまちづくりなど
 - ③自分を見つめ人生や将来について考える「生き方学」：夢と生き方など



子ども大学ふじみ入学記念のトートバッグ。ふわっぴーがプリントされていて、サイド部分のカラーはピンクとブルーがあります。

第1回子ども大学では、こんなことをしました

特別講座① 知ってる？富士見市
富士見市の歴史について、写真を見ながら学びました。小学校の昔の姿や、富士見市に昔は海があったこと、子ども大学ふじみ学長・副学長（市長・教育長）からの思い出話など、初めて知ることばかりだった子どもたちは、ノートを取りながら熱心に聞いていました。

特別講座② 富士見検定
特別講座①で学んだことを生



かして、富士見検定に挑戦しました。6つの問題の答えを隣同士の間と一緒に考え、たくさん正解することができました。参加した記念に、ふわっぴーのシールをもらいました。

講義① スポーツで友だちの輪を作ろう！

講師は淑徳大学でレジャー・レクリエーションを研究している西田俊夫教授で、スポーツを通して交流を深め、友達を作ることを学びました。

最初のうちは緊張していた子どもたちも、いくつかのグループワークを行っていくうちに、元氣よくにぎやかになっていきました。特に、フライングディスクの体験では何度も挑戦し、まっすぐ飛んだ時にはペアを組んだ仲間と一緒に、笑い合っていました。講義後に回収したアンケートには「まっすぐ飛んでうれしかった」「またやりたい」「友達がたくさんできた」などの感想がたくさん書かれていて、思い出に残る講義となりました。



子ども大学ふじみの講義などのはじめは市ホームページまたは県ホームページでも紹介しています。

実行委員長あいさつ



子ども大学ふじみ実行委員長
岩村 滝也さん
(淑徳大学教授)

「子ども大学ふじみ」は大学施設や、富士見市にあるさまざまな施設で、会社で働く方、演劇活動家、市の資料館の学芸員の方、あるいは大学の先生との交流を通して、小学校では学べない社会勉強をしていただく機会です。皆さんには小学校とは違う施設や大学に足をのばしてもらうことになります。新しいところに行き、いろいろな人と会うのはワクワクしますね。この子ども大学を行うに当たり、たくさんの市民ボランティア、市や県の職員、淑徳大学と立教大学の教職員が協力して、このようなプログラムを作ることができました。これから子ども大学で大いに勉強してください。

子ども大学入学式での子ども代表あいさつ 関ゆみんさん (ふじみ野小6年生)

子ども大学に応募した理由は、小学校生活最後の1年で、学校だけでは学ぶことのできないさまざまなことについて学ぶ良い機会だと考えたからです。



特に楽しみにしている講義は、「こころのふしぎ」です。私が普段、うれしい悲しいと感じるのはなぜなんだろう？と不思議に思っていました。

7回に渡るさまざまな分野の講義をとおして、興味や関心を深めていきたいと思っています。ここにいる仲間と一緒に協力してよりよい子ども大学にしたいと思っています。

参加した時田さん親子にインタビューしました

- Q 子ども大学の募集を何で知りましたか？
- A (親) 母親友達の情報です(その友達は広報紙から情報を得たそうです)。
- Q 参加のきっかけは何ですか？
- A (親) いつもの勉強だけでなく、自動車やアイスクリームの授業を受けることで、視野を広げて欲しいと思いました。また将来のための経験にもなると考え、子どもを誘ったら、やってみたいと本人が言ったので申し込みました。
- Q どのプログラムに興味がありますか？
- A (子) アイスクリームの授業です。

